

## ニュース

### プロポリスと代替医療

「プロポリスと代替医療：アピセラピーの一環として」と銘打ったシンポジウムが、第3回日本補完・代替医療学会のサテライトシンポジウムとして、11月4日（土）、京王プラザホテル（東京、新宿）を会場に開催された。プロポリス研究者協会を主催者とするこのシンポジウムでは「アピセラピーの一環としてのプロポリス、ミツバチの立場から（玉川大学・中村純）」、「ドイツにおけるプロポリスに利用（東京科学技術研究所・川村賢司）」、「プロポリスの抗酸化作用（静岡県立大・中山勉）」、「プロポリスの水迷路学習効果（鈴鹿医療科学大：鈴木郁功）」、「代替医療とプロポリス（前田総合医学研究所・前田華郎）」の5題の講演が行われ、講演者に藤本琢憲（玉川大）、熊澤茂則（静岡県立大）を加えた総合討論が、プロポリス研究者協会代表幹事の松香光夫（玉川大）の司会で行われた。参加者は100名を超えた。

また補完・代替医療学会本会議では「プロポリスの活性酸素消去作用と臨床Ⅰ基礎（東京健康科学専門学校・松繁克道）」、「同Ⅱ臨床（城後外科・城後昭彦）」の特別講演、ほか一般発表でもプロポリス関係の発表が複数あり、同学会におけるプロポリスへの意識の高さを伺わせた。

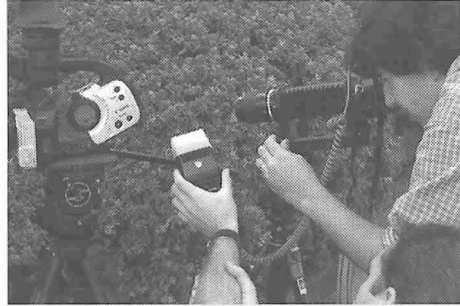
（文中敬称略）



総合討論で勢揃いした研究者

### 海外からの取材

米国ナショナルジオグラフィックテレビジョンのショーン・ファインプロデューサーほか「スズメバチ」に関する番組制作のための予備取材に来日。玉川大学でも撮影を行った。



スズメバチのアップを撮影

#### 編集後記

今年はオオスズメバチの被害が大きく、秋の流蜜に合わせて合同した大型群が、トラップをつけていたにもかかわらず全滅。スズメバチも年々賢くなるのか？と妙な感心をした。

今号では、蜂ろうについて資料的価値の高い古賀氏の論文を掲載できた。小林氏ほかによるニホンミツバチの花粉媒介関連記事は、趣味養蜂だけでなく実用面へのニホンミツバチの利用という点で重要。セイヨウミツバチを上回らなくても、同じような結果が得られるのであれば今後の利用研究にも弾みがつくだろう。

ブラジル産プロポリスの代表的起源植物であるアレクリンの正体を加藤氏ほかの調査と Basotos 氏による分析で明らかに。葉を噛んでいるというのはこれまでにない植物利用で今後の展開が楽しみである。またプロポリスのような類似成分を含む物質の分析の難しさを熊澤氏ほかに論じていただいた。

第1回の国際プロポリス学会がアルゼンチンで開催され、日本では補完・代替医療学会でも、プロポリスへの注目度は高かった。日本産のものはどうだろうかという質問も受けたが、現在藤本教授が日本産の分析を進めているところ。海外産のものについての詳報（次号）に続いて、国産プロポリスについても本誌に掲載の予定なので楽しみに。

さて今号も計画通りの刊行ができず、一年を通じて遅刊の連続となり、読者の皆様には大変ご迷惑をおかけした。来年はなんとか定時刊行ができるようにしたいものである。（純）